事例No.	833
公表年度	H30
団体の属性	一般市
団体名	福岡県宗像市

事例区分	DX

タグ	・RPA ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	RPA

事例内容・タイトル

RPAによる農地情報の自動入力

出典

地方自治体におけるAI・ロボティクスの活用事例

ＲＰＡによる農地情報の自動入力（福岡県宗像市）

実証実験

農耕地の賃貸借権の設定状況や利用状況について、**農地情報公開システム（全国農地ナビ）へのデータ入力**をＲＰＡで実施。

課　題

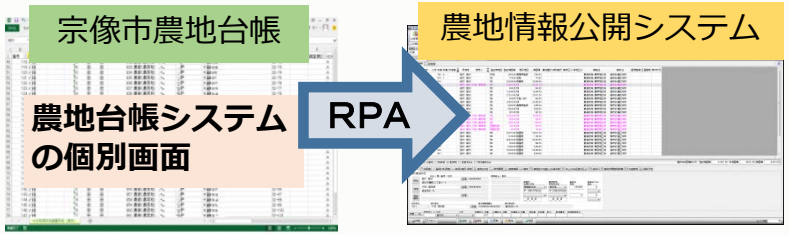
○　賃貸借権設定状況：システムへのｃｓｖ一括取込ができないため、**１件ずつ手入力しなければならない**
　　最大1,800件、１件あたり作業時間　約１０分　⇒　**300時間**

○　農耕地の利用状況：システムへのｃｓｖ一括取込はできるが、**取込データの作成に手間がかかる**
　　約23,000件、１件あたり作業時間　約3分　⇒　**1,150時間**

合計1,450時間

取　組

○　賃貸借権設定状況：
宗像市農家台帳システムの個別画面から必要な情報をＲＰＡで入力



○　農耕地の利用状況：
地図に手書きされた情報から職員が手でエクセルを作成。
エクセルから農地情報公開システムに取り込めるデータをＲＰＡで作成し、一括取込



成　果

○　合計1,450時間想定の入力業務が**約４０時間**で完了
○　機械による自動作業のため、**入力ミスなし**